

こらからも新商品を作っていくぞプラン

事業実施主体名	鳥取西部農業協同組合 あいみ果実部	住 所	南部町
プラン認定日	平成20年2月25日	プラン期間	平成20年～平成24年

1 プラン内容

(1) 概要

○目的

消費者に「買いたい、食べたい」と思わせる商品を作ることを目標に、網掛け栽培の推進、土壌改良の実施、省力化栽培、品種構成の見直し等を推進する。

梨：新品種を植え、食べておいしい梨を作り続けることにより、果実部全体の販売単価を高水準で維持していくことを目指す。

柿：老木園を若木園に更新し、「富有の里」を将来にわたって強固なものにしていくとともに、生産性向上により出荷量増加を目指す。

○取り組み

①園試育成梨新品種の植栽、②梨の無袋栽培、③梨園の土作り、④柿新品種の植栽、⑤梨柿園の基盤環境整備等を推進した。

(2) 取り組みポイント

- 園試育成梨新品種の植栽（次世代鳥取梨産地育成事業の活用）
- 梨の無袋栽培（多目的防災網、蛍光灯）
- 梨園の土作り（共有バックホー）
- 柿新品種の植栽
- 梨柿園の基盤環境・整備等（伐根整地、果樹棚、防除網、共有SS）

(3) 事業の概要

年度	内 容		事業費 (千円)	補助金額(千円)	
				県	市町村
H20	梨 柿 柿	バックホー（深耕機械） 1台 防風網 40a 100m 共有SS（クボタSSV601F/1） 2戸	6,305	1,898	950
H22	柿	果樹棚 39a	3,551	1,138	593
H24	梨柿	低床トラクタ（深耕機械） 1台	2,295	765	383
合 計			12,151	3,846	1,926

2 プラン実施状況

(1) 果実部員数、面積、出荷量（データについては、あいみ果実部より提供）

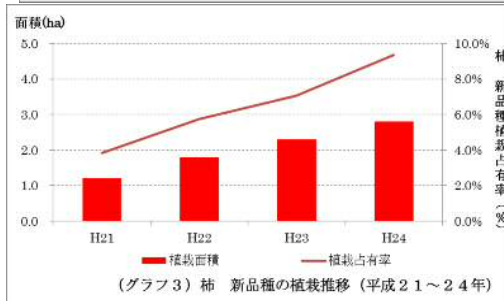
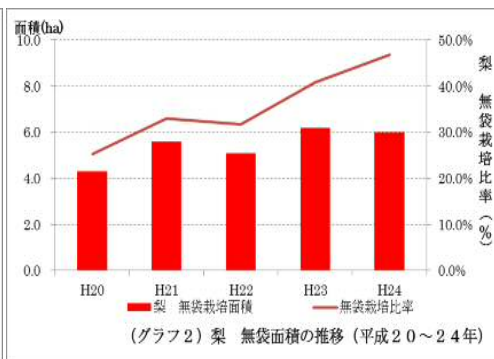
項目	認定時(平成20年度)		現 状(平成24年度)	
	梨	柿	梨	柿
果実部員数(名)	95	93	93	89
面積(ha)	49	32	43	30
うち、新品種(ha)	2.3	—	6.1	2.8

(2) 成果

ア プラン目標に対する実績

・梨柿の新品種導入が進み、面積が増加した。

- ①園試育成梨新品種の植栽：3.3haと占有率は25%近くまで上昇した（グラフ1）。
- ②梨の無袋栽培：6.0haと、無袋栽培面積が半分近くまで上昇した（グラフ2、写真1）。
- ③梨園の土作り：5.4ha。バックホー導入園がモデルとなり、土作りが進んだ。
- ④柿新品種の植栽：2.8haと新品種の植栽比率は9%近くまで上昇した（グラフ3）。



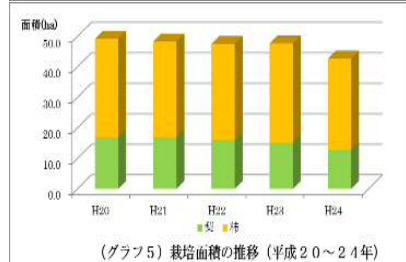
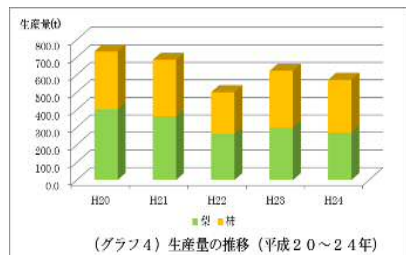
(写真1) 梨の網かけによる無袋栽培

イ 産地の活性化状況（栽培面積）

・生産量、栽培面積及び果実部員数を維持できた（グラフ4、5）。

ウ 更なる経営発展方向

- ・経営の柱である梨部門においては、無袋栽培等の省力化技術・新品種の導入を推進し、柿部門においては、新品種の導入を進めていく。
- ・更新された新品種の出荷量の増加により、産地の活性化が期待される。
- ・平成25年度からは、南部町が策定した「次世代につなぐ果樹産地リレープラン」を推進し、新規就農と既存の優良園を後継者につないでいく取り組みに力を入れていく。



[西部総合事務所西部農林局]